

SUMITOMO

拠点所在地



住友建機 リサイクル紀行

Vol.35 江口金属(佐賀県)

朝夕干満差が日本第一の有明海は、長い歳月をかけて佐賀県南部の沖合に平野を形成し、肥沃な干潟と干拓によって一帯は穀物地帯として栄える地域になった。県南西部に広がる白石平野は、杵臼山の丘陵部から河川で運ばれる重粘土が堆積し、連根や玉ねぎの一大産地ともなっている。この豊かな地で発祥した江口金属(本社)佐賀県白石町、江口弘幸社長は、独自のアイデアと技術で発展を遂げた金属リサイクルの有力事業者だ。稲穂が垂れはじめ、濃緑に色づいた大豆の葉が田畑に茂る中秋の候、同社の本社工場を訪れた。

佐賀・福岡エリアに5工場

安全清潔な現場を徹底

鉄や非鉄金属の各種リサイクルを展開する江口金属は現在、佐賀県内に4カ所、福岡県に1カ所の工場を構える。鉄を切断する油圧シャワーを本社工場(切断圧1600ト)と広川工場(1250ト)に持つほか、三方締め300トプレス機や銅線ナゲット機、

タイヤ破砕機など、充実した加工設備を整えている。主力とする自動車の扱いは月間1000台以上。部品販売や原料へのリサイクル加工のほか、アルミ溶解・合金工場ではエンジン・ミッションから高純度のアルミインゴットを精製して販売している。



本社工場(佐賀県白石町)

型に捉われない運用を実現

組織安定へ人材確保に注力

江口金属の事業運営について、営業本部部長の馬渡幸一氏は「社長のひらめきが多く取り入れられている」という。例えば主力設備の油圧シャワーは、地中に埋め込む特徴的な設置スタイルを採用して効率性と環境性を高めた仕

様になっている。スクラップ類の買取価格は、顧客によって変動しない一律制にして透明性を持たせている。「スクラップヤードは綺麗であるべき」との考えも、創業当時から不変だ。こうした独自戦略が一般ユーザーからも支持されていった。

本社工場を除く4工場は、幹線道路に面しており、武雄工場と広川工場は高速道路のICからも程近い。創業の地にある本社工場も国道に近く、行き交う車から目立つ位置にある。各工場の外壁には持ち込みを歓迎する看板を設置。地理的優位性とPRで知名度を高めており、現在は同社が取

り扱う商材の8割ほどを持ち込みが占めているという。一方で引き取り体制も充実している。佐賀県と福岡県で解体業の許可を取得しており、入札物件の実績も豊富だ。20トトレイラーやユニック車などの運搬車も完備。引き取り時はこれらの車両も活用して高い機動力を発揮する。こうした「荷受」と「集荷」双方の充実化が、数量と収益の安定化につながってきた。本社工場の壁面には「整

理・整頓・清潔」の文字が掲げられている。江口金属においては、この3つの「S」が現場の特徴といえる。敷地内の床は全面に鉄板を敷き、足場を整え、粉塵の飛散を抑制している。釘一つ落ちていないため、車両のパンク事故なども発生しない。工具類は所定の位置に置かれ、重機類は経年を感じさせないほどに磨かれている。こうした対応は徹底しており、整理が行き届いていない時には全ての作業を止めて清掃作業を実施したこともあるという。

3Sの徹底は「3Kのイメージがあるスクラップ工場だからこそ、お客さまに安全で清潔な環境を提供しなければならぬ」という江口社長の高いこだわりからなるものだ。これが会社のDNAとなり、世代を超えて綺麗な工場を築き上げている。

は試行錯誤の日々だったが、業に対する探究心とアイデアを組み合わせることで従来の型に捉われない運用スタイルを確立した。

現在は時代に即した運営を模索している。江口尚登常務取締役は「脱炭素の流れもありスクラップ産業は今後伸びていく。当社も適正な運用を続けると同時に会社組織を安定化させていく必要がある」と語る。



江口尚登常務取締役

会社は1978年に金属回収業を行う個人商店として江口社長が創業した。スクラップ業はゼロからのスタートで最初

～住友建機がある風景～



SH200LC-7LM：2022年3月に4機のSH200LC-7を導入し、鉄スクラップ荷役や自動車解体の現場に投入している。江口金属のマシンはどれも綺麗に磨かれており、導入から20年近く経過したマシンも経年を感じさせない。

礎をともに築いたパートナー

住友建機が提供するエレベーターキャブを搭載したSH120シリーズは、省スペース型でありながら高い位置からも作業が確認できる機能性を備えたマシンだ。このコンパクト機にエレキャブを搭載するきっかけは、江口社長のアイデアだった。今から20年ほど前、住友建機において世界一の金属リサイクル機をつくるプロジェクトが進行していた時期の事だ。製品化されたエレキャブ搭載のコンパクト機は全国に拡大。江口金属は住友建機製リサイクル機の礎を築いたパートナーといえる。



自動車解体機のSH200LC-7CS

現在、同社では15機の住友建機製マシンを保有している。30年にわたり数多くの重機を操作してきた馬渡本部長は住友建機のマシンについて「進化が目覚ましく、操縦室の密閉度や作業の操作性など、バランスが非常に良い」と語る。これからの様々なフィードバックを通して住友建機とのパートナー関係が続いていく。



2005年に導入したSH330LC-3SL

担当：長尾 浩司
保守保全の管理・ご相談など、機械に関する様々なお手伝いを通して、現場作業の更なる効率化にお役立て頂ければ幸いです。



住友建機販売株式会社 西九州支店
〒849-2102 佐賀県杵臼郡大町町大字福母383-2
Tel: 050-9002-4884 Fax: 0952-82-5864